

# 温暖化防止

# ストリート

街角

道



## 第24号

2007.3.1

気候ネットワークの会員同士のつながりを強め、その環を一層多くの人に広げたいと思い、この「温暖化防止・ストリート」を発行しています。

### 「温暖化防止・ストリート」の由来

このストリート（街角）で温暖化防止について語り、情報や人の環が広がっていくことが、温暖化防止への道（ストリート）につながることを願っています。一緒に歩いてみませんか。

### 気候ネットワーク

～わたしたちはめざします～

1. 抜本的な国内対策で京都議定書の6%削減を！
2. 環境重視の社会経済システムを！
3. 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
4. 政策決定プロセスに市民の参加と情報公開を！
5. 南北の公平をめざし、南の人々と連携を！



- ・用語解説「ppm/CO2e」 ……P.1
- ・団体紹介「日本生活協同組合連合会」 ……P.2
- ・温暖化Q&A・こんなことできる……P.3
- ・活動紹介・本の紹介・スタッフからの一言………P.4

## 地球温暖化に関する用語解説

### ppm/CO2e

「二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の世界的な大気中の濃度は2005年には379ppmに増加した」と、IPCC第4次評価報告書に報告されています。この「ppm」という単位は温暖化問題ではよく使われるのですが、日常生活ではあまり使われないので、あまり実感のともなわれないものです。これは、**parts per million**の頭文字をとったもので、100万分の1を表す単位です。

2005年度は、大気1の中に0.000379のCO<sub>2</sub>があったということになります。%（パーセント）で言えば0.0379%です。

「CO<sub>2</sub>e」（CO<sub>2</sub>換算、または等価CO<sub>2</sub>）という用語も使われます。これはメタンやフロン類などのCO<sub>2</sub>以外の温室効果ガスに地球温暖化係数をかけて、CO<sub>2</sub>に換算して加えた濃度として使われます。「スターン・レビュー（気候変動の経済学）」によると、現在CO<sub>2</sub>eはすでに約430ppmになっています。

「気温上昇のピークを2度未満に抑えるためには、大気中の温室効果ガス濃度を450ppm以下に」という目標では、CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガスも含めた「CO<sub>2</sub>e」の濃度で考える必要があります。

※CO<sub>2</sub>eのeはequivalentの頭文字

（関連記事：気候ネットワーク通信53号2頁）

## 紹介者

「日本生活協同組合連合会」の紹介です。大沢年一さん（同法人 環境事業推進室長）から紹介していただきました。



大沢年一さん

今回の団体は

気候ネットワークの団体会員の紹介です。

# 日本生活協同組合連合会

生協は全国で2,350万人の組合員が参加する日本で最大の消費者組織ですが、生協には店舗や共同購入・個人宅配などを行っている地域生協の他にも、職域生協、大学生協、医療生協、共済生協などさまざまな生協があります。

日本生活協同組合連合会（日本生協連）は、こうした全国の600余りの生協を会員とする全国連合会です。日本生協連は食の安全や環境・福祉をはじめ消費者運動を推進するとともに、コープ商品の開発などの商品事業や共済事業などを行っています。

生協の環境保全活動は、1970年代からの水環境を守る運動やマイバッグの持参運動などに溯りますが、1990年前後から牛乳パックやトレイなどのリサイクル、二酸化窒素や酸性雨などの環境調査活動、環境に配慮したコープ商品（タイプIIの環境ラベル）の開発・普及などを進めてきました。また1990年代後半から環境マネジメントシステムの導入を開始し、現在は全国で87の生協がISO14001の認証を取得しており、日本生協連はその支援をしてきました。2000年代に入ってから店舗や共同購入・個人宅配の事業面でのCO<sub>2</sub>削減を進めています。店舗の時間帯別・系統別のエネルギー使用量の詳細調査や、省エネ設備機器がメーカーのカatalog値通りの省エネ効果があるかどうかの実測や評価を行い、実際に役に立つ省エネ対策メニューを整理しています。そうした省エネメニューやノウハウを普及しながら、地域生協で温暖化防止の自主行動計画を策定し、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

同時に、家庭での省エネ活動も大きなテーマと位置付けています。前から取り組んでいる環境家計簿は、参加者が増えないことが悩みでした。そこで2年前から省エネのきっかけ作りと

して、より多くの方が参加できるよう「1日エコライフ」、1カ月の取り組みの「電気ダイエットコンクール」、1~6カ月の「エコカレンダー」という3つの簡易な省エネメニューに取り組んでいます。こうした家庭での省エネ活動については、東京と大阪で年1回交流会を行っていますが、昨年の交流会では、東京は気候ネットワークの平田さんに、大阪は田浦さんにお出いただき、温暖化や省エネのわかりやすい話で、元氣とやる気をいただきました。

家庭の省エネ活動には、2006年度は全国で11万人の参加まで広がり、その中には行政や地域のみなさんと一緒に取り組み、3万5千人が参加するような生協も出てきました。しかし生協の組合員の数からみればまだ一部の方の参加ですので、2007年度は参加者を倍増したいと思っています。また、今後はこうしたきっかけ作りの活動を更に広げると共に、CO<sub>2</sub>の削減効果が実感・実測できるような省エネメニューを作りたいと考えています。そうした点で気候ネットワークは頼りになる存在ですので、これからも一緒に取り組みをすすめていきたいと思っています。



さいたまコープでの「1日エコライフ」への参加呼びかけの様子

## 第6回 HFC、PFC、SF6ってなに？

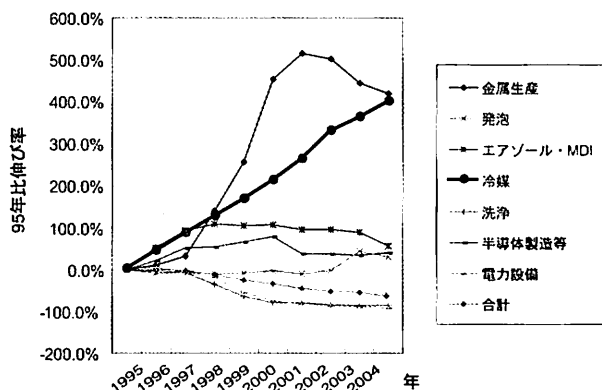
京都議定書の対象である6ガスのうち、HFC（ハイドロフルオロカーボン）、PFC（パーフルオロカーボン）、SF<sub>6</sub>（六フッ化硫黄）という3種類のガスがあります。化学用語ということもあって一般になじみがありませんが、クーラー、冷凍食品、携帯電話、パソコン、住まいなど私たちの生活に縁が深いところで使用されています。

「代替フロン」という呼び名もあるように、HFCはオゾン層破壊物質であるフロンの代替品として、この10数年で急増してきました。身近なところでは、ルームエアコンやスーパーやコンビニの冷凍冷蔵ショーケースなどはほぼ全てHFC冷媒です。また、HFCはビルや住宅の建築断熱材にも使われています。一方、PFCやSF<sub>6</sub>は、携帯電話やパソコンなどに使われている半導体や液晶の製造工程でエッチングとして使われています。

これらの物質は、オゾン層は破壊しませんが、CO<sub>2</sub>の数千倍から数万倍という、強力な温室効果を持っています。IPCC第二次報告書では、これら3ガスについて、安定化のためには「ただちに排出をゼロにしなければならない」としていますが、このような警告を発信する理由は、もともと自然界にはない人工的な化学物質で、PFCなどは寿命が非常に長く、

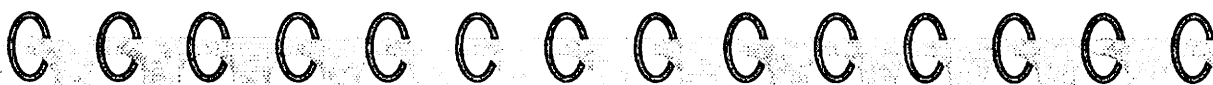
一度放出すると半永久的に大気中に残ってしまうためです。

家庭用冷蔵庫でフロンを使わない「ノンフロン冷蔵庫」が販売されているように、それ以外のところで使われている冷媒も断熱材も、技術的にはHFCを使わない方法があります。にもかかわらず、「脱フロン化」の動きも見られるもののほんのごく一部に過ぎません。まだまだ現状ではHFC急増の傾向に歯止めはかかっていないことを私たちは知っておくべきでしょう。



2006年8月に発表されたインベントリーオフィスのデータを元に作成  
【図】代替フロンの用途別利用状況の変化

温暖化防止  
こんなことできる！



このコーナーでは、「家庭・個人」・「地域・グループ」でできる効果的な温暖化対策を紹介していきます。

### 今回のテーマは、 「自然エネルギーマップ」

自然エネルギーマップは、地域にある自然エネルギーの利用状況を地図に落とし込み、地域のどんなところで、どんなエネルギーが利用されているのかを視覚化（ビジュアル化）したものです。

京都では京のアジェンダ21フォーラムの自然エネルギーワーキンググループを中心に、マップづくりの取り組みがはじまっています。公共施設での太陽光発電や市民共同発電、カフェのペレットストーブや薪ストーブ、ピッツアリアの薪釜など、100以上のスポット情報がWeb上で確認できます。また、薪く炭くKYOTO（しんくたんくきょうと）が製作しているバイオマス絵巻では、伝統的なバイオマス利用の取り組みが紹介され

ています。京都以外では愛知県豊田市の足助でも、地域資源を見直すきっかけとしてバイオマスマップづくりに取り組んでいます。

自然エネルギーの利用状況を視覚化することで、自然エネルギーを身近に感じ、さらには訪ねて触れることで、自然エネルギーへの理解を深めることが今後の普及につながっていきます。また、ユーザーのネットワーク化にもつながり、更なる自然エネルギーの普及に貢献できるものです。

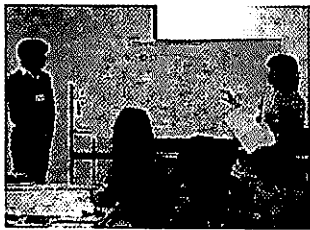


きょうと自然エネルギーMAP  
<http://ma21f.web.infoseek.co.jp/ecomap/remaps.html>

# Action

## 気候ネットワークの活動紹介

### 地域戦略パートナーシップ会議



川口市での会議の様子

気候ネットワークでは、現在、各地のNPOや関係組織などと連携して「地域戦略パートナーシップ会議」を開催しています。これは、地域での温暖化対策のあり方について、その地域のNPOや行政、事業者など、関係する多様な主体が参加して議論するというもので、これまでに、札幌市、岡山市、埼玉県川口市で開催しています。実施内容は地域ごとに若干異なっていますが、基本的には、まず、気候ネットワークから全国

各地の先進事例の紹介をし、次にそれを踏まえて、参加者間で、その地域での温暖化対策に関する現状や課題の抽出、活動の企画などを議論するためのワークショップ、などを行いました。

今後、地域でパートナーシップ型の温暖化対策を推進していく上では、関係する主体が一同に会して議論する場を設けることが重要です。こうした取り組みが各地で実施されるようになることが望まれます。

# Book

## 書籍紹介

### 『ピーク・オイル・パニック 迫る石油危機と代替エネルギーの可能性』



著者:ジェレミー・レグgett  
訳者:益岡賢+植田那美  
+梶田素子+リック・タナカ  
定価:¥2,400(税別)  
単行本:399頁  
ISBN:4-86182-103-7  
発行:作品社  
2006年9月30日

原油価格が高騰し温暖化が進行している状況で、誰もがこのまま石油依存の社会でいいのだろうか?と感じていることでしょう。本書の著者ジェレミー・レグgett氏は、私たちの日々の暮らしの中では知る機会の少ない「石油の発見」について技術的見地から浮き彫りにし、ピーク・オイルの問題を分かりやすく伝えてくれます。ピーク・オイルによってもたらされる経済危機と、その背後にある地球温暖化問題を回避するための代替策として、再生可能エネルギー普及や省エネに関する記述も多く、その重要性を概観することが出来ます。温暖化防止を進めるためにも、私たちが知らなくてはならない現実を提示してくれる良書です。

# News

## ありがとうございました。



今月をもって退職する  
スタッフの岡 優子から一言!

京都スタッフ 岡 優子

スタッフの「おかゆ」こと岡優子です。この度、気候ネットワークを退職することになりましたので、ご挨拶申し上げます。スタッフとして関わり早5年、ボランティア時代からは7年、気候ネットワークに関係する皆様には大変お世話になりました。いろいろな経験を経て、成長することができました。本当にありがとうございました。今後は、地元の福岡で温暖化防止活動を行なっていく予定ですので、またお世話になる機会もあるかと思えます。今後ともどうぞよろしくお願いたします。

### 編集後記

暖冬の影響で寒さを全く感じなかった2月もあっという間に過ぎ、3月になりました。今年のサクラの開花日は更に早まりそうですね。私は花粉症に早くも苦しんでいます。

多くの方が身の回りの異変に気付き、温暖化防止に取り組んでくれることを切に願います。

ハックシュン!  
(マッキー)



特定非営利活動法人 気候ネットワーク

代表: 浅岡美恵 / 副代表: 須田春海 / 事務局長: 田浦健朗

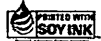
URL: <http://www.kiconet.org/>

「温暖化防止・ストリート」24号  
2007年3月1日発行(隔月1日発行)  
編集・DTP: 松木美佳・平岡俊一

京都事務所(本部)  
〒604-8124 京都市中京区高倉通四条上る高倉ビル305  
TEL: 075-254-1011 FAX: 075-254-1012  
E-mail: [kyoto@kiconet.org](mailto:kyoto@kiconet.org)

東京事務所  
〒102-0083 東京都千代田区麹町2-7-3半蔵門ウッドフィールド2F  
TEL: 03-3263-9210 FAX: 03-3263-9463  
E-mail: [tokyo@kiconet.org](mailto:tokyo@kiconet.org)

古紙100%の再生紙に大豆インクを使用し、風力発電による自然エネルギーで印刷しました。



郵便振替口座: 00940-6-79694 (加入者名: 気候ネットワーク)  
銀行振込口座: リソナ銀行 京都支店 普通口座 1799376 (気候ネットワーク)